



隊友ロゴマーク

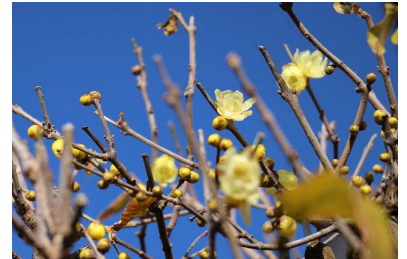
支部だより 2月号

第154号 2018. 2. 1

香川県隊友会丸亀支部

〒763-0071 田村町 699-17 Tel 0877-22-8981

支部長 大西邦彦 090-1007-9199



新春の 息吹みなぎる

ロウバイ花 (中山会員写真提供)

1月の活動報告

1. 地域ボランティアへの参加

15日 10:00~11:00の間、丸亀護国神社の招魂祭を支援しました。開始に先立ち、09:00から神社境内の清掃を実施。ご参列の遺族は3名。禰宜宮田治彦様祭司のもと、世話役として宮本様母娘、支部からは、赤松、香川、丁野、高島、小松、武田、大西(支賑)の会員7名のご奉仕を頂きました。

2. 支部会議等

・支部だより1月号配布

6日(土) 09:00~香川県護国神社参集殿において高島、小松、武田、丁野、西岡(克)、猪井、大西(支賑)の7名が配分作業を実施。

3. 県行事等

・賀詞交換会

日時: 1月18日(木) 18:00~
場所: リーガホテルゼスト高松において実施
支部から県事務局長、支部長他3名が参加。

・隊友会防災資材点検整備

日時: 1月28日(日) 10:00~
場所: 丸亀市水防センター(垂水町)
直江県事務局長、天野(善通寺)、武田、大西の4名が実施。自治会防災組織(善通寺)の見学がありました。

2月以降の予定

1. 地域ボランティアへのお誘い

丸亀護国神社にて、毎月15日 10:00から月例の招魂祭が行われます。会員皆様のご参加ご協力、宜しくお願ひします。清掃奉仕・準備は、09:00から実施します。

2. 支部会議等

・支部だより2月号配布等

日時: 2月3日(土) 09:00~10:30
場所: 香川県護国神社参集殿

3. 県行事等

・110教育大隊部隊移駐

日時: 2月8日(木) 13時~
場所: 善通寺駐屯地グラウンド

※見送り行事参加希望者は、支部長又は事務局長まで連絡下さい。

・故郷探訪(歴史散歩)

日時: 2月25日(日) 善通寺支部担当
(9時~13時予定)
服装: ウォーキングに適した服装
(健康保険証、傘等(小雨時))
集合場所: 香川県護国神社駐車場

※細部は、県だより1月号参照。

1月招魂祭実施風景



一致協力して作業する(上)
チェーンソーで木を切る小松会員



い清 しげち みの連
ま掃丸た、の境ま落日祭
す奉亀。日中内しちの祀
。仕護 本、はた葉寒に
皆活国 の国、に波先
様動神 平旗掃 全・立ち
のは社 和をき 員強ち
協、に、掲清 協風境
力平対 郷揚め 力の内
お成す 土、ら し影の
願11る の英れ て響清
い年招 繁霊清 作で掃
しか魂 榮に々 業、を
ら祭を 黙し 想像
す。行支 祈禱い 取り
つ援 りを気 取り
て、 ま捧持 組上



掲示板

1. 新入会会員

氏名: 開口敦司 様
住所: 原田町1770番地3
部隊: 110教育大隊
職業: 坂出LNG(株)

2. 故郷探訪(歴史散歩)

平成29年度後期歴史散歩(故郷探訪)を2月25日(日)9時~13時の間、善通寺支部の担任により実施予定です。
風光明媚な歴史ある善通寺の名勝・旧跡等を散策しながら巡るものです。
散歩コースは、歩きやすい平坦地で約5キロほどの道のり、ご自身の健康のためにも、てくてく、とことこ、善通寺を歩いてみませんか?

※参加希望者は、大西支部長まで連絡を下さい。
(2月17日までに)

携 帯: 090-1007-9199(大西支部長)

※ 昼食は、総本山善通寺駐車場付近のうどん店で喫食予定です。

※ 集合場所: 香川県護国神社駐車場(参集殿前の駐車場ではなく、乃木神社入り口南隣の駐車場)

Father In West Kagawa

柴田進 会員 山北町

今は観音寺市に吸収合併された、大野原町。そこで、私は生まれ育ちました。私が中学生の時、右上腕部を骨折して入院しました。当時は豊浜町姫浜にあった、橋本病院にです。

以前から見知っていた意外な人が、見舞いに来ました。小学生の時の校長先生です。なぜだろうと思いました。どうやら、この病院の事務員となっているようです。校長をされて再就職し、元気に働かれておられました。その橋本病院も、今は三豊市山本町に移転しています。

私の母は、よく自転車で豊浜の病院に通って来ました。退院後も、私を自転車の荷台に乗せて、大野原町花稲の接骨院に連れて行ってくれました。その母は、平成13年6月に脳梗塞で入院しました。接骨院と同じ花稲にある、井下病院にです。

意識はあるが、半身は動かず声も発せない状態でした。燧灘が望める病室から、穏やかな表情で旅立ちました。

母の生前と同じように、年越しは妻子を連れて父宅で過ごすようにしています。大野原八幡神社で初詣、丸亀に帰り山北神社でも初詣するのが、恒例になっています。

毎年、父は大野原地区の敬老会に足を運んでいます。大野原は、先進的な地区です。何がかとすると、すでに65歳以上が人口の三分の一を占めています。この敬老会も、ある程度の高齢を満たす人が対象です。これは、日本全国の未来図でしょう。それも近未来の。

平成24年12月11日、父が救急で入院しました。JR豊浜駅から燧灘よりの、三豊総合病院にです。外でバイクに乗っていましたが、パンクしたバイクを押しながら長く寒風の中にいて、心筋梗塞になりました。

ICUで酸素マスクをしていて、危なく思いました。どうも父は強運みたいですね。もう少し治療が遅ければ命の危険があり、しかも、当直医が心臓専門でなければ難しい状態だったそうです。やがて一般病棟に移りましたが、窓から海が見えます。

父が入院中なので、いつも通りの年越しどころではありません。大晦日は、丸亀の自宅で過ごしました。元旦、田村池で初日の出を拝み、豊浜へ向かいました。正月気分を出そうと、病室の床に敷物を広げ、カルタを始めました。「楽しくない」という娘を相手にして。

この病院は救急指定で急性患者のためにあり、容態が変化しなければ2ヶ月を目安にリハビリ専門病院に転院しなければなりません。寒い冬なので、入院しているほうが家族も安心ですが。父の受け入れ先が決まり、2月18日に転院しました。豊浜から三豊市山本に移転した、あの橋本病院にです。

父の入った病棟には、旅館かホテルと見まがうぐらい快適そうな共用場所と個室がありました。重症な人は、観察容易な大部屋に収容されています。若い職員たちが、きびきびと世話をしてくれています。ここも、やはり重症でない人から退院になります。

3月10日に父は退院し、日常生活に復帰しました。同年の6月末、母の十三回忌が惣持寺で営まれました。平成29年6月、母の十七回忌が生家で催されました。

同年11月27日昼、父が脳梗塞のため入院しました。五年前と同じ、あの三豊総合病院に、です。病室の窓からは、やはり燧灘の景色が眺められます。右半身不随で、言葉にならない声だけを発せられます。母の時と違うのは、入院初日からリハビリの転院について告げられたことでした。

この寒くなる季節は、脳梗塞や心筋梗塞を発症して搬送される高齢者が多い、ということです。4週間後の12月25日、父は転院しました。転院先は三豊市の橋本病院、そこで年越しを迎えます。

今回の病棟は、自立歩行困難なので大部屋です。ここも上限150日、次はどうしたらいいでしょうか。常時又は随時介護を要しますが、家族で付きっきりは難しく、どこかの施設に入所するのが望ましいです。

ところが、目ぼしい所があっても重症な人が優先です。現在は、住居に近い観音寺市を中心に物色中です。かつて子らの幼稚園を選んだ日々が、甦ってきました。誰もがいつか行く道、他人事ではありません。落ち着かない年の瀬、年賀状作りも手につきません。やっと書き上げて投函したのは、大晦日でした。

年が改まり元旦から、見舞いに通っています。大晦日は雨でしたが、正月は好天続きに恵まれました。病院は、国道377号線、金比羅街道に面しています。ここへは地方道24号線、善通寺大野原線を通ります。国道11号線や予讃線に沿う高松寄りの景観と違って、車窓に広がる田園風景を目にします。豊浜もそうですが、讃岐山脈に近づくと、自分を育ててくれた原点の山河に接する思いがします。

寺社本殿への参拝前に、参道を歩き心が清まるような。父母の愛は、山よりも高く海よりも深い、といます。親があり先祖があって、私があり子孫があります。

1月7日、息子の成人式について、父に報告しました。その帰路、仏壇屋に寄って福袋を買い求めました。平常の通常価格で買うよりも、お得になっています。この仏壇屋ではパワーストーンも手がけるようになっていますが、私の選んだのは違う種類のものでした。かわいい店員と話をすると、去年大学を出たそうです。内用品を広げ、これも衝動買いだったかと思いました。翌8日の祝日は、雨でした。

人生様々です。雨の日もあれば、晴れの日もあります。13日にも見舞い、翌14日は高松に行きました。偕行会の新年会で、私を含め16名が集まりました。

最年長は、父より年長の旧軍出身者です。九十代で矍鑠としておられ、あやかりたい思いです。

隊友の皆様も、ご家族ともどもご自愛下さいませ。

坂出沖で海洋資源調査。善通寺支部U氏と共に 荒谷直政 会員 垂水町

1月14日(日)06:15 坂出市入船町棧橋に到着した。久しぶりの海洋資源調査。まだ薄暗い中、師匠であるU氏の到着を待つ。船は出船の45分前だが、既に棧橋に着いていた。程なくしてU氏も到着。もう竿にリールと糸を通して準備万端。「あれ、セットしてないの?」とU氏。「うん、釣り場に着いてからやるかと思って」と小生。「船は揺れて作業し辛いよ」と師匠のアドバイスを受け、結局、出船前の船の中で(周りを巻き込み)手伝って頂きやっと糸を通した。(老眼の現実を痛感)

そして7時に船は出船。坂出沖は、予想に反して風や波は、無く絶好の調査日和(釣り日和)だと感じました。船長の「はい!良いよ!入れて下さい」「底から約10メートル付近まで」等のかけ声・合図がかかる。

U氏は、釣りをしながらも素人同然の小生に親切にアドバイスしてくれる。「当りはあってもなかなかのらないなあ!」と船尾で釣っている方がつぶやく。天気は良いのだが水温の低下の為に魚の食いが悪いのである。地合いがくると同じ船に乗っている方々の竿は大きく曲がり歓声があがる。焦る小生の竿先には全く当りすら無い。

数時間が過ぎた頃やっと「グン、グン」と。竿先に小さな当たりを感じる事ができた。そして竿先がグイグイ、グーンと海の中に引っ張り込まれた。「来たー!」「やったー!」慣れない私はゴリ巻きで両軸リールを必死に巻いていた。巻き過ぎて竿先を折らないように気を付けた。

U氏がタモですくってくれた鯛は、立派な刺身サイズだった。船長が拍手をしながら「おめでとうございます。」と言って下さった。次回釣行では、もっとスムーズに手返しをしたいと思いました。